ミロンジ

1995. 1. 12　No. 42

バングラデシュと
手をつなぐ会

A HAPPY
NEW YEAR

ことしもよろしく
おねがいいたします

94年はカラムニティ村のめざましい前進の年でした。自分たちの手でつくった夜間学級、第3小学校、勉強への意欲、医療・保健の自主的、具体的なプラン、自立への研修・勉強……そして日本ではベンガル語講座で何人かが一生けんめい勉強しています。ことしも一そう元気に手をつないで進みましょう。

（大木）

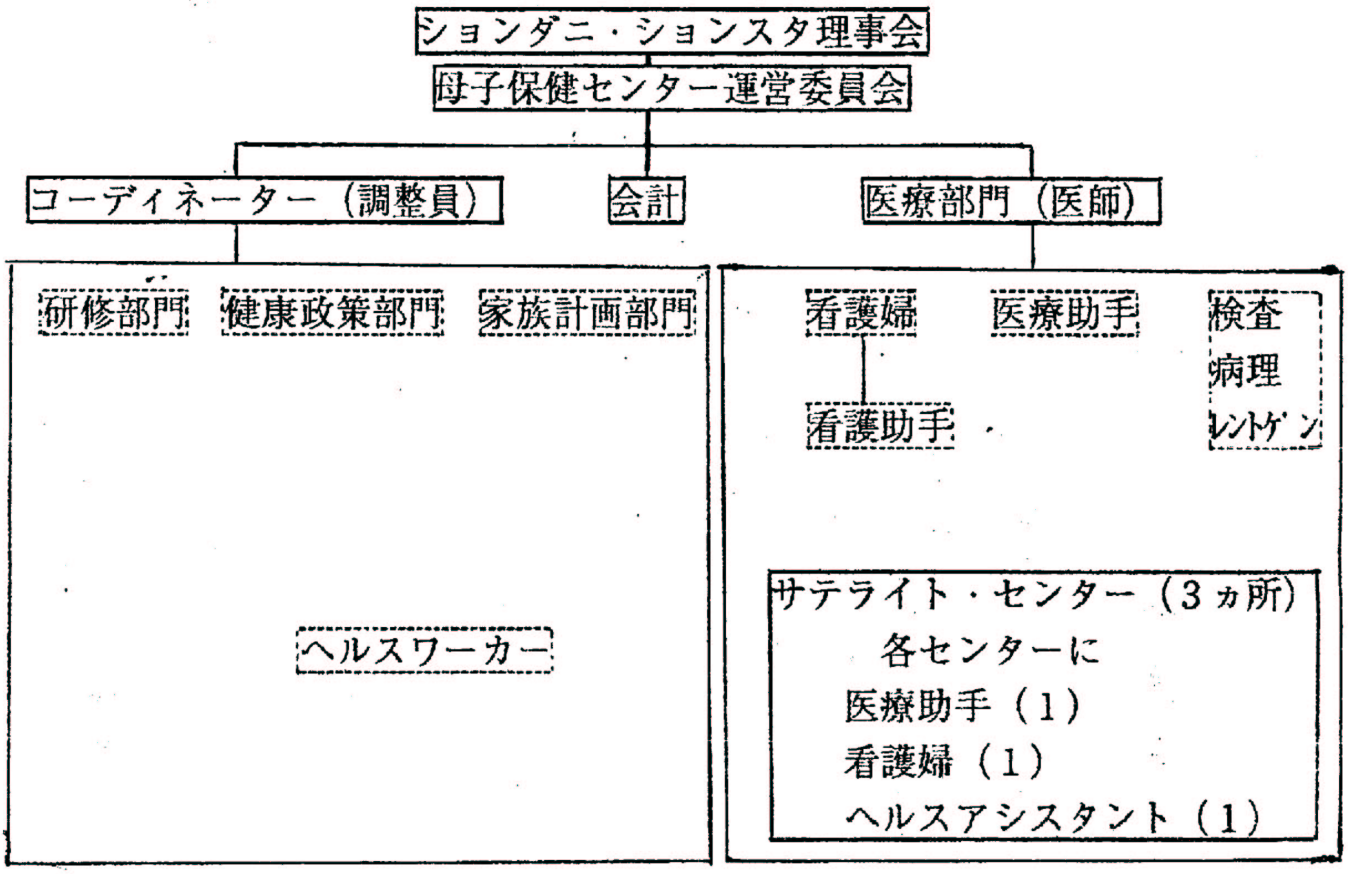
1月29日

チャリティ・バザー
ご協力を！

まず・やること

☆ ★ カラムディ村からのたより ☆ ★

先月に引き続き、カラムディ村から「ションダニ・ションスタ」の活動報告が届いています。今回は特に、**「母子保健センター」の管理、運営**を進めていく上での体制作りが述べられています。ションダニは、次のような管理体制を考えています。



基本的にはこのような体制で行くことになると思いますが、実際的には若干問題点もあると思われますので、次回訪問時に十分検討することになるでしょう。

財源について：ションダニでは、母子保健センターの運営のための財源を日本からの支援だけに頼るのでなく、以下のような方法も考えています。

1）国内　①診察料（診療の度に患者が払う。）
　　②健康保険（村人が普段から保険料を払っておく。）
　　③地域住民による定期的援助
2）国際的援助（お金だけでなく、人的援助も含む）

これらの計画の実現にむけて

昨年７月に日本からの訪問団との相談により、建築中の建物の１階を母子保健センターとして利用できるように、いくつかの部屋にわけることに決めました。その工事はすでに終わり、また３階の工事も始まっています。（診療のための器材は日本から送る予定ですが、当面必要なものは現地でそろえる予定です。）今年の夏に母子保健センターを開設するために、人的な準備などもこれから行う予定です。

また、地域住民の参加による健康改善活動を考えています。そのためにまず、下準備として隣の県で同じ様な活動をやっているＮＧＯに３人のビレッジ・ドクター（裸足の医者）を派遣し、２週間の研修を受けてきました。その研修の内容や、それから学んだ彼等の考えを次回に紹介しようと思っています。（ラフマン）

ＮＧＯ福岡ネットワーク

日時　１９９５年１月２１日（土）午後２時～５時
場所　三和メディカルホール
　　博多区博多駅前１丁目４－４
　　（大博通りの安田生命ビル１２階です。）
　　TEL 092(411)5855

今回は、初めての「総会」と、JVCのタイのワーカーからの活動報告（参加費５００円）です。お楽しみにご参加ください。また、終了後にはゆっくりと懇親会を持つ予定です。

バングラデシュと手をつなぐ会の会員の皆さまもご自由にご参加ください。いろんなＮＧＯの方々とも知り合えるいい機会だと思います。

懇親会（午後６時から、近くの焼き鳥屋、参加費３０００円の予定）は準備の都合がありますので、事前に大木までご連絡をお願いします。

一目でわかるバングラデシュ

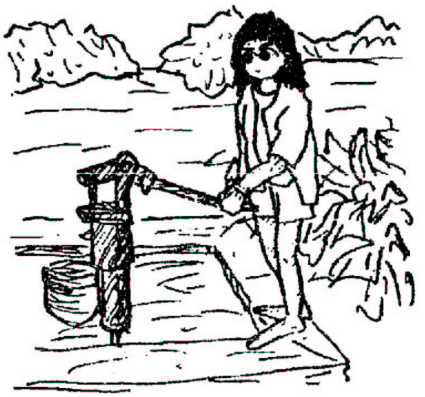
ション
（真
バングラ
の村人に
教育や保
生活改善
「手をつ
のもとに

バングラデシュは？

南アジア、インドの東に接する国。
人口は約１億２千万人。
住民はベンガル人で、ベンガル語を話します。
イスラム教徒が９０％を占めます。
１９７１年パキスタンから独立。

自然は？　産業は？

アジア・モンスーン地帯で、雨季と乾季がありますが年中暑い国です。
ガンジス河とプラマプトラ河の二つの大河が合流して、ベンガル湾に注ぐ、大きな三角州の上にできた国なので「山」と「岩・石」はほとんどありません。
雨季にはよく洪水に見舞われますが、豊かな実りをもたらしてもくれます。国民の大部分が、農業か漁業に従事しています。
主な輸出品は、繊維や織物、ジュートです。



教育と保健医療

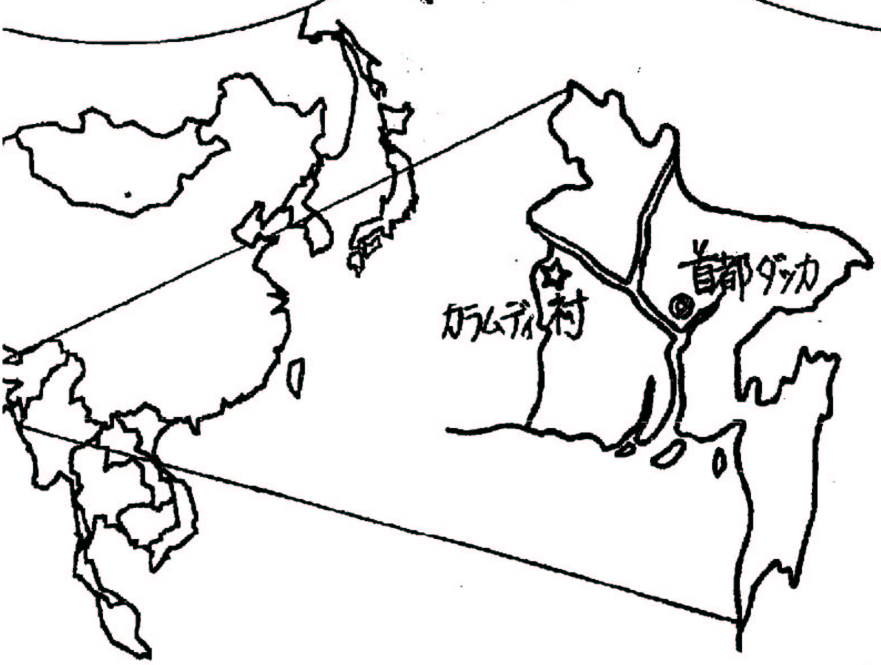
政治や経済にも大きな問題がありますが、子供たちにとって大切な問題は、教育と医療です。
義務教育は小学校（５年間）となっていますが、実際には３分の１程度の子供しか学校に行けません。文字が読めるのも３０％の人だけです。
病気やけがのときに十分な医療を受けられないのも問題です。ほとんどの農村では病院がありません。特にお産や小さな赤ん坊のときは大問題です。生まれた子供１０００人のうち１８０人が５才までに亡くなります。

ダニ・ションスタ

理を探求する会)
デシュ・カラムディ村
よる自主的な団体。
健医療をはじめ、村の
のための計画をたて、
なぐ会」の支援と協力
実行しています。

バングラデシュと手をつなぐ会

福岡を中心としてバングラデシュとの国際協力を進めています。
毎年１回バングラデシュを訪問し、現地で活動を行うと同時に、日本国内で広報活動や募金活動・学習などを行っています。



バングラデシュと日本の比較

	バングラデシュ	日　本
面積（万㎢）	１４．４	３７．８
人　口	１億１９００万人	１億２２６０万人
人口密度(人/㎢)	７２８	３２４
平均寿命（男）	５５．３才	７４．８才
平均寿命（女）	５４．４才	８０．５才
５才以下死亡率（出生1000当り）	１８０	６
識字率	３０％	９９．９％
１人当りGNP	２２０ドル	２万６９２０ドル

♪♪♪「手をつなぐ会」忘年会始末記♪♪♪

12月26日（月）、新天町はカメラ屋、居酒屋がひしめく雑居ビルのE.V前は待ち合わせの若者で一杯だ。私の気持ちも一挙に遊蕩気分に変わっていく。

この一年間を慰労して開かれた「バングラデシュと手をつなぐ会」の恒例の『忘年会』だが、慌ただしい年の瀬、参加者の予想もつかず、しかも、書記役の私は「忘年会」をレポートして、この一年間の反省記録を残す役回りを負わされている。小心者の私にとっては肩にズシリと重い『忘年会』である。

1987年に、「バングラデシュに学校をつくる会」が創設され、翌々年には、小学校創設。以来、現地訪問も５回を重ね、カラムディ村との協力範囲も面的に広がり、村を挙げての改革と結びつきがあるといっても過言ではないだろう。この一年も、村の要請に誠実に応えようと「会」は活動したと思うが協力体系の内容、質、規模の変化に応じるに足る人的、物質的備えはあるのだろうか。運営委員だが書記役という狭いポジションから見た時、若干危惧を感じる時がある。運営委員会参加者の少ない事や、固定化は改善されないまま年を越そうとしている。

私についても優柔不断、小心者ゆえに、会の活動の後をついていくだけで精一杯で、場当たり的な愚図な仕事しかできていない。村の人達の青写真が、発展し、具体的になっていく中で私はどんな立場でどう関わる事が必要なのか、問い直しを迫られている。しかし、今晩は「忘年会」である。牧師様もいらしゃることだし、大いに懺悔して、旨い酒を飲もうという心積もりだ。

☆★☆

以下は、私が見聞した事の中から興に任せて書き、綴ってみたもので「会」の総括でも何でもありませんが来年の課題をみつけていただければ幸いです。

◎キャリア・ウーマンの偉大な先輩、盆、正月以外休み無しの職場でやり繰りした休日を郵送作業に当てて来られたSさん「ここに居る位の、大勢が作業日に集まるとはかどるんですけどね。」

◎絶品のかしわ飯作りの名人でもう一人のSさんは、料理を周囲に取り分けながら「正月のもてなしに張り切っていますが、会の忘年会にドレスアップするのも楽しくてね。」

◎視察報告書の処置についてのNさんの処方箋は常に明解でかつ、ロマンティックだ。「市内中学校に校長宛で寄贈しましょう。国際理解や開発教育の一助にと言えば、適宜取り計るでしょう。多感な中学生の眼がこの報告書に注がれて、何が生まれるか楽しみではありませんか。」

◎残っているカレンダーを同窓会に持っていくことを相談するとOさんのアドバイスはこうだ。「売るつもりではなく、人数分持って行ってお土産にすればいいでしょう。でも、カンパしていただければこれこれに役立ちます、と呼びかけてみたらどうかしら、きっとうまくいくわよ。」予言はまさに当たり、正月の同窓会では全員が帰りを急ぐ中、カンパしてくれたのです。

◎天衣無縫にバングラデシュ訪問にチャレンジしたと見えたMさんでしたが、カルチャー・ショックは免れなかったと見える。「バングラデシュに行って困った事は、この私の美貌と健康を維持すべき水と食事上の問題でした。水は茶色でココアを思い出させるし、おかずは甘いか、辛いかの味しかなく後は果物だけ。果物が苦手な私は、スペシャル超激甘のおかすには参ってしまいました」

他に会員や協力希望の方が多数忘年会に参加して下さいました。戦後50年目を目前に、日本と世界との関わりについて議論が　出してきています。足下の問題が先という方もあるかもしれませんが、今は地球的規模で考える時代との認識が広がっています。「会」を足場に、共生、共存の道を模索していけたらと願って欄筆。

(文責　安達満里子)

募金をありがとうございました.

- 西南学院中学
- 筑紫伝道教会 婦人会
- カタリナ聖基金（ひじり）
- 平塚子ども劇場
- 久留米友の会 奉仕部
- 福岡友の会 子供部

バザーにご協力 おねがいします

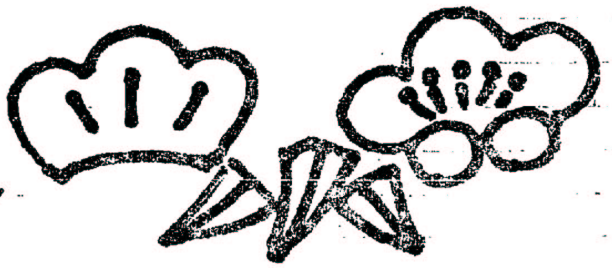
1月29日 1.00-
西新商店街

到来品・食品
まだ充分使える 中古品

品物のある方は ご連絡下さい

値段つけ 28日 1.00~
大木宅
822-5795

これからの予定



運営委員会

1月 16日(月)(振替休日) 1.30~

2月 19日 (日) 1.30~

作業日

2月8日(水) 1.00~
9日(木) 1.00~

会議も作業日も オープンです
どなたでも 来て下さい

お手伝いも よろしく!

バングラデシュと手をつなぐ会
〒814
福岡市早良区5－5－13
TEL・FAX 092（822）5795
代表：大木 松子

送金先
郵便為替01720－2－10442
加入者名
バングラデシュと手をつなぐ会

バングラデシュと手をつなぐ会

♡チャリティバザーだよ

やすいよ〜

チャリティバザー

とき　1月29日(にちようび)
1時から4時まで

ばしょ　西新商店街
住友生命ビル前

★　バングラデシュと手をつなぐ会では恒例のチャリティバザーを行ないます。沢山の品物が多くの善意により集められました。これらをびっくりするほどの格安のお値段で販売しています。なお、バザーの収益はバングラデシュのカラムディ村の教育と医療の改善に使用させて頂きます。

★　「バングラデシュと手をつなぐ会」は、1986年バングラデシュのカラムディ村の小学校建設の援助からスタートした民間ボランティア団体です。その後、医療改善プロジェクトを加え国内での広報と併せて活動しています。詳しいお問い合わせは

〒814-01 福岡市早良区西新5-5-13
大木 松子　☎092(822)5795 までどうぞ